「戦場と心の傷～ママはイラクへ行った～」を見て

「戦場と心の傷～ママはイラクへ行った～」を見た。
番組は、米軍のイラク駐留の激しい戦闘ストレス体験から、PTSD（心的外傷後ストレス障害）を発症する元母親兵士の帰還後の様子を伝えるものであった。
米軍はイラクなどに、総兵力のおよそ 11％にあたる１９万人の女性兵士を送り込み、その１／３は子どもを持つ母親兵士とか。
戦場を襲う「殺される恐怖」と「人を殺す恐怖」の極限状況における人間心理からのPTSD。

帰還したが、我が子の顔を見る度に銃殺したテロ兵の少年の顔が重なり、以前のように我が子を愛することができなくなり、今は入院治療を続けている元母親兵士。
また、敵・味方の見分けのつかない人混みでのテロ体験から、子どもとの外出も避け、子どもたちが遊ぶ花火の音に、戦場の爆音、銃撃音を連想し、パニックを起こす元母親兵士。

以前に目にした新聞記事では、米国の医学専門誌によれば、イラクからの帰還兵の２割が PTSD とかで、日本から復興支援に派遣された陸上自衛隊員も帰国後に３人が自殺したとか。

そう云えば、PTSD の概念もない先の大戦後の日本でも、心の傷を負った兵士の診療と研究を行う国立のある専用病院には総計１万人を越える精神を病んだ兵士が収容され、２００５年時点でもまだ高齢になった８０余名が入院中との新聞記事を思い出したが、こんなに半世紀の長きに渡り PTSD を引きずるよう。

いくら訓練法の改善を重ねて条件反射的に発砲できる兵士たちを作り出しても、また、近代兵器・戦術としてピンポイント攻撃が開発されようと、引き金を引き、ボタンを押すのは、やはり一人の人間。
感覚、感情はその人の固有のものであり、他の人では計り知れないもの。

それだけに、戦場の極限状態とは比べようがないが、相手に恐怖心や悲痛のような深い心の傷を与える言動（いじめ、虐待、暴力、等々）は、日常的にも厳に慎むべきと思う。

豆知識
・トラウマ：単に「外傷」を意味するギリシャ語であったが、フロイトが過去の強い心理的な傷がその後も精神障害をもたらすことを「精神分析入門」で精神的外傷を意味する用語として使用したのが、現在のような用語使用の始まり。
・PTSD：生活上のある体験を原因とする重い心の傷＝心的外傷（トラウマ）が、後になってその人の心の中に侵入していき、それを原因として様々なストレス障害を引き起こす疾患。

阿部幸泰　　（2008 年 9 月 21 日　記）